

# 新 規 採 用 停 止

八 十 八 谷 生

先般政府は現下内外の狀勢に鑑み、特殊團體、特殊會社並に政府全般に亘る新なる人事運營方針を示達した、事は周知の事であるが其要綱によつて見るに之が所謂職員の新規採用停止令と本質に於て何等異るところなきは充分首肯される所である。

「人が足らぬ」「人が居らぬか」と云ふ様な言葉は近來日滿を通じて到る處に擧つて居つた聲であり、之に伴ひ勤勞生活者の移動浮動が日増しに烈しくなりつつあつた時であるから、本停止令の發動は、少くとも國政樞軸に觸れざる吾々大衆にとつては青天の霹靂の如く感ぜられたのである。

乍併本令の發動に就て深く顧みてその原因を探求するに現下の世態よりして又當然の措置である事が自ら諒解せられる。

即ち近時の新東亞建設を目途とする滿日支經濟ブロック結成の線に則り、吾が滿洲國に於ては國內諸開發事業の伸展と各種事業の統制強化及之に伴ふ各般の機構整備のため政府職員の増加を來し、又特殊團體會社の創設膨脹により、要員の獲得運動は日を逐つて熾烈となり、遂には人的資源の分配を混亂せしめ、これが爲日本國內に於ける諸事業運用に對する人的缺乏を招來するの結果となり、又最近日滿經濟圏内に於ける資金壓縮不可避の狀勢は、政府並に特殊團體會社の内容再検討を要する機運を醸成し、又各方面に亘る經費節減のため人員の量的充實より質的充實に轉向せざるを得ぬ状態となり、この結果自ら先づ第一手段たる新採用ストップ令の發動を要する事になつたものと想像せられる。

さて吾々は此際今回の人事運營方針と之が運用後

に於ける、各自の堅持すべき態度、並に希望に就き慎重に考究する必要があると思ふ。

政府の企圖する今次人事運營の核心は、量より質への精銳主義であり特に日系を對照とせる點に主眼がある以上、現職者の覺醒を促すと同時に、其能率増進のため各種適切なる處置を講ぜらるべきであらう。又これと同時に滿系の養成訓練に依る積極的活用が刻下の緊急事であると思ふ。吾が國在來の人材配置の理念とする處は、活動的國家意識旺盛なる滿系職員を以つて組織せらるる機構内の特殊位置に、眞に有能にして指導者たるの手腕力量を有する日系の點在にある事は云はずもがなのである。

然るに現下の國內各種機構は新興國家たるの特性上滿系を以つて填充すべき各層に亘り、日系を以つて補はざるを得ぬ實狀にありて、遂には日系過多ならざるやの聲を聞くに到つてゐる。かかる時態は一に滿系人材の拂底に起因するのであるが、亦其訓練と運用に缺くところなしとしない。

今や東亞の空は、歐洲動亂の影響を受け、複雑微妙を極めてゐる。日本の受持たねばならぬ天地は實に廣大となり。日本民族の指導的役割にありては重且つ大を加へ、滿洲にのみ在來の如き密度を以つて日系を配置するを許さざる状態になりつつあるものと思はれる。

此處に以上の如き事情を想到する時、何れの觀點よりするも日系自體の職能高度化訓練に依り、各人が眞に指導者として充分能力を有すべき選良であり、多數滿系職員を以つて固めらるべき吾が國內各種政治經濟機構内の特殊ポストに配置して、其手腕

を發揮せしむる半面、訓練と教育の普及に伴ひ素質向上せる滿系の積極的活動に依り順次日系の數を減じ、之等餘剩日系を日本の要望する他の方面に活躍するの素地を作り、此處に初めて今次人事運用の趣旨と目的が達成せらるるものと云ふべきである。

だが而し日系の一人一人に高度化せる職能を有せしむるには、各般の新しき施策と其訓練が必要であり、之がため實蹟を擧ぐる迄可成の期間を要し、滿系の積極的活用にも亦相當長期間の教育を要するを以て、國家の要望する所と一致せざる事は明かであり、此處に矛盾があり悩みがある。

然らば如何にしてかゝる「ピンチ」を切り抜くべきかと云ふ事になるのであるが、結局新採用を停止せられた今日、各層の現職員の猛省奮起により其心機更新能率増進を促し、一面之が誘引たる革新的人事行政の出現を以つて對處する以外に方法がないと思ふ。

従來官、公、特殊團體、特殊會社の職員は、其濫床的組織内にあると封建的不文律人事に禍せられ、全く去勢されたるかの感なしとせぬ。「官僚的」と云ひ「役人根性」と云ふも皆かゝる風潮を指摘したものに外ならぬ。世に「お役人仕事」なる言葉がある誠に失敬千萬な言葉であるが、因つて以つてその來る所以と、在職者各人自己の既往もしくは現在を深く省察して、忸怩たらざる氣持を起さざるもの果して幾人あるであらうか。實に頂門の一釘とも云ふべき言ではあるまいか。又日本の某大實業家が或る席上に於て「役人は人間の屑である」と喝破して失言問題の紛糾を捲き起した事があるが、かゝる言葉が不用意の間に於て、挽ゆまざる努力と困苦欠乏によつて不動の地歩を確保したる、一實業家の口より出でたる事に對し、失言の取消如何に拘らず深く考へさせられるものがある。

日本乃至我國の勤勞生活者の消極的非能率性は近來の人材運用上の大いなる欠陥に起因するもの少しとせざるも、各人の奮發心よりする積極性の缺如に原因する所亦大である。

今日の如き一日の愉安をも許さざる世相の中にありては國運隆昌の爲、苟も職を公に奉ずる以上、一大勇猛心よりする積極的感念なり、行動なくしては到底國家の期待に副ひ得らるべくもない。

かゝる感念下の職員一人一人が各人のポストに立脚して活動せんか、我國各種機構の有機的運用は刮目に値すべき一大轉換狀勢が展開せられ、「お役人仕事」なる汚名は自ら解消し、生氣潑刺たる青年滿洲國を現出するであらう。

此處に新規採用停止令發動後の吾々官、公、會社職員、特に日系職員の國家的要請に應えんとする核心が存在するものであるまいか。國家の希望する適材適所主義と云ひ、精銳主義と云ふも、皆在職者の積極的奉職態度を求むる事以外にないと思ふ。

かく考へ來つて、吾々は今や國家の要請に對し、これではならぬといふ覺醒心と共に、國策の爲粉骨碎身を覺悟するもものであるが、翻つて考へる時、半面之等新事象の誘因たるべき國家の新しき施策を翹望してまゝぬものがある。換言すれば、在職者各々が人生意氣に感すべき物心兩面に亘る推進力を切望するものである。

我國建國後數年間の人事運用は人材主義に則り、政府より會社へ、會社より政府へ、技術官より行政官へ、又滿日人事交流と適材適所により、其交流新鮮味は上下を擧げ誠に潑刺として在職者一人一人が明日への希望を大なり小なり持つて、營々國家建設に邁進してゐたのである。而るにそれが建國後僅か十年を閉せざる現在に於ては如何。最早動脈硬化症狀たる、所謂官僚式人事運營方策に趨らんとしてゐ

るではないかと思はれてならない。若し然りとせば、颯爽青年滿洲國に凡そ似つかはしからざるもの之に過ぎたるはない。特に今般の如き新採用停止を目途とせる人事運営方策確立後に於て然り。今にして改めずんば、今回の人事運営方策は單なる口頭禪と化すであらう。

筆者が強く革新人事の運営を要望してやまざるものは、かく縷述するが如き各種根據と實狀に所以するもので人をして各々其特徴を發揮せしめ、常に希望を抱き潤達なる氣持にて其職にあらしむる事は、各人の積極的執務能力發揮の根源であり、従つて現下我國が要望する量より質への人物重點主義にマッチする最短徑路と云ふべきを痛感するからである。

一般政府の制定せる文官令に就いては批判を避けるが世論は囂々として毀譽褒貶相半ばすると云ふ有様であつた様に思はれる。何れにしても其解釋と運用の充分でなかつた點もあつて、可成在職者に精神的束縛を與へる結果となり、遂に能率の低下を招來せる原因の一つともなつたと思はれる故に今般更に

文官令趣旨徹底と刻下の時局に適應せしむる爲、一部の改正を行ひ、官吏の能率刷新を企て、更に又特殊團體、會社に對しても從來の如き窮屈なる監督權を行使せず、被監督者自體をして大いに其事業經營の手腕を發揮せしむる由であるが、新採用停止後の今日に於ける適切なる處置として双手を擧げて賛意を表すると共に、明けて口惜しき玉手箱でない事を念願する。

之を要するに我國刻下の急務たる新人事運営方針の徹底と其効果を期對せんとせば、先づ在職者の積極的奉職態度を促すと共に、之が誘因であり、因果關係にありとも云ふべき劃期的人事刷新方策の發動こそ緊喫なれ。

筆者は今激しく移り變りゆく世相の中にあつて、今日突如發動を見たる新採用停止令を手にして、世態の變通自在に啞然たると共に、此一大變動期に對處すべき吾等在職者、特に日系官、公、會社職員の覺悟と當局への要望を掲げて、國策遂行の理想に到達せられん事を切望する次第である。(康 7, 7, 31)

## 會員諸氏へ御願ひ

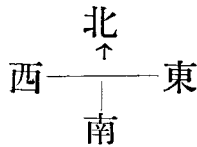
◆轉居、轉任等(舊住所又は勤務先記入の事)の場合は必ず其の都度御通知下さい。會員名簿の訂正、會誌の發送其他通信事務整理上特に御願ひ致します。

### ◆機關誌建設原稿募集

論說、研究、資料、隨筆

寫眞………工事寫眞(撮影月日及簡單なる説明を附すること)

以上各種共掲載のものに對しては薄謝を呈します。新京交通部道路司内滿洲土木研究會編輯部宛御送附下さい。



### □ 本欄創設の辯

滿洲土木研究會の機關誌「建設」と言ふと全くいかめしく聞える。術語と數字で充満して居る感じである。これでは手不足で過勞を強いられて居る地方會員へのつけから親しんで貰へる譯はない。勿論研究の發表、資料の提供と言ふことは本誌の使命に鑑み大切なことは贅言を要しない。然し更に會員相互の親睦融和を計ると云ふ事が本誌に與へられた最も重要な使命の一つであつて、しかも従來割合に看過されて居たのではなからうかと考へられる。其意味に於て本誌の何處かに誰にでも隨時気軽に讀んで貰へる部分があつて、其部分が全滿の會員から集つた記事で充されて居れば、自ら會員相互の親睦を計れるのではなからうかと考へたのが即ち本欄の創設である六。

敷しく言へば上意下達、下意上達の關であり、ひらたく言へば赤裸々の各地便りである。

主義主張は勿論のこと討論 報導 行事 既行 歌辭 詩歌 何んでも結構、長ければ長くてよく、短かければ一二行のもので良くと堂々と本名を乗つても匿名でも一向差支へない。

要するに新京を中心とする東西南北から會員の聲を集めて此處に盛り度いのだ。

北の方では日常茶飯事も南の方ではビツクニュースであり東の方では常識化されたことも西の方では未解決のまま放置されて居ることもある。だからこんなことを馬鹿々々しいと一人の胸に收めてしまはないでドンドン書き送つて貰ひ度いと思ふ。原稿紙に書くことは仲々臆劫なものだから端書に鉛筆書位で送つて呉れてもいい。

文藝春秋に毎號菊池寛氏のペンになる「話の脣籠」と云ふのが載つて居る。大抵の讀者は先づあれを讀んで次に移る相だ。それと同様に本誌も本欄からと云ふ程度に興味多く親しみ深いものにした。そうなれば従來のやうな机上に置き放して「建設」は開いた事もないと云ふ珍妙な本會の會員は完全に跡を絶つに至るだらうと信じて居る。(黒田)

### □ ハロン、アルシヤンより

此間當地へ視察に見えた本部の黒田さんから「建設」に何か書くやうに言はれて生返事をして置いたが正直者の悲し物、早速ペンを探つて見たもの一向に構想は纏らず、只徒らに時間を

空費するのみだが。僕は昨年多年住み馴れた東京からはるばる此處へ來たのだが、到着する迄は北滿の涯にこんな立派な温泉が湧出して居るとは夢にも思つて居なかつた。此の邊は阿爾山又は温泉へ呼ばれて居る處だが蘇滿國境に近い大興安嶺の麓にある一寒村に過ぎない。然し温泉にひたりながら構想を練り、休養し、且つ英氣を養ふ好適地である。若し許されるならば、

1.2 日間的好樂地として滿洲國實しと雖も他に比類なき景勝コースがある。

先づ白阿線大和驛に下車し國道を自動車を利用して變化の多い山岳地帯を走り乍ら眼下に平原を眺める雄大なる景色は實に壯觀だ。沿線には雉、山鳥、山七面鳥等數多く棲息して居て更に一段と旅趣を増すと云ふものである。夜ともなれば狼の遠吠えが一旦しこれは少々淋しさを誘ふ感ありだ。大興安嶺の横斷は誠に筆舌に盡し難い雄大さを持つて居る。昨今は滿山炎し上るやうな紅葉だ。頂上よりは波の國が眺められる。

山を越し終つた處が即ち阿爾山だ。温泉の地である。湯は誠に文句なし。浴場は露天と屋内に二種あるが、屋内浴槽は滿鐵經營の阿爾山ホテル内にあり、露天風呂は36箇所に分散して居る。面白い事には浴槽毎に其効能が異なり36箇所全部に入ると萬病に効くことになる。實に靈驗あらたかなお湯だ。9月13日には既に氣温は零下5度に降下したが、露天風呂は矢張り大入り満員だ。

景物として浴槽の周圍の石垣から蛇が鎌首を持ち上げて居る少々グロではあるが1度見て置くべきだ。

諸兄も1度は是非此北滿の涯の天然の恩恵を受けられ浩然の氣を養ひ以て滿洲國建設の爲一層の努力を捧はれんとを希望するものである。(江崎生)

### □ 哈爾濱の人人

9月の下旬、行先を異にして居たが、偶々阪上水路司長、中島都呂計畫司簡任技正と共に哈爾濱に行く。

熟睡のホテル、ニューハルビンの朝は又とない心地よいものであつた。ブラインドを上げれば外は素晴らしい快晴だ。

3人で圍んだ朝餉の卓の話題も自ら淡々として明朝である。歩道の石畳に長く影を引いて靜かに中央寺院の方へ歩を運んで行く黒装束のロシア美人の後姿がチタクと窓越しに目に寫る靜寂の此一時。トタンに突然の大入道の進入で破られる。見れば故あつて嘗つての美髪を青剃りにした相馬土木廳長の御入來だ。

今日は家の子郎黨を引具して御大自ら我々の視察の先導をし

て下さると言ふのだ。病氣で保養して居ると聞いて居た井深監路科長が案外元氣な顔を見せて呉れる。市の下川土木科長も一行に加はつて相變らざる説明をして呉れる完全にタツプリー一日、哈爾濱市の内外を引張り廻はれた。御蔭で協和服が國防色から白色に變じたが、兎に角哈爾濱と云ふ町の概念を得る事が出来た。燈ともし頃ホテルに歸着したがこれで開放されたか、ヤレヤレと思つたも東の間直ちにヤマトホテルの大賣間で省、市の關係廳、處科長20數名集つて食事を共にし懇談會をやると云ふのである。懇談會は源田省次長の主催で夜の11時迄つゞく。ここまでしていたゞくと全く非常時らしくして寧ろ何か知ら快感を覺えるものが、あつた。此點大いに相馬廳長のソツのないプランに敬意を表して置き度い。(黒田)

#### ◆ 源田濱江省次長の決心

懇談會の中心話題は都市計畫、防空施設、治水事業、道路等土木百般に亘つて居た。

壁頭原田次長から「現下非常時局の大勢に鑑み行政全般に亘り重點執行の方針は免れ難き所であるが、本省に於てはかねて中央當局の採擇を得たる治水開發事業の執行に當つては或場合には他の緊急なるものを犠牲にしても萬難を排し遂行する決心である」と極めて大膽にして確信に充ちた端的の表明があつた續いて相馬廳長の探聴で太田河川科長の治水開發事業計畫の説明、藤原市工務處長の市の土木施設に關する一般の方針に就ての説明等現地側20數名の人が色々な意見を述べられた。そこで始めて食事にありつたが正に9時を過ぎて居た。

食後新京から來て居る3人に物を言へと言ふのである。源田次長の挨拶ですつかり興奮してしまつて居た筆者は到頭こんなことを言つてしまつた。「信念と勇氣は隣り合せである。先程の源田次長閣下の御言葉は全く信念あつて始めて口に出来ることである。治水開發事業遂行の前途には如何なる困難が横たわつて居るかは今日尚我々は充分想像出来るのである。

然し今晚伺つた次長閣下の堅固なる信念と果敢なる勇氣に依て絶対に本事業は成功するとの確信を深めることが出来た。と同時に次長閣下は聞きしに優る立派な尊敬すべき方であることを知つた次第である」と。

實に先輩、大官に對して無禮なことを言つてしまつた譯であるが自分としては只率直に眞情を申上げただけである。のみならず今だにそう思つて居る。其後事業公債發行に關する同次長の談を新聞で見て益々其感を深くして居る。現在の滿洲國には

斯うした燃ゆるが如く熱と力を具備した人が絶対に必要なのである。此の人に依て世に出ることになつた此國家的大事業も其根幹はすべて土木技術の上に樹てられて居るのである。計畫の精粗と施工の巧拙は直ちに事業の遂行に重大なる影響を持つ事を考へる時特に本事業に直接關係する人々の自重自愛を期待すると共に多少共にこれに關聯性する部局に在る者は事業目的達成の爲全面的に支援を送るべきであると信ずるものである。

#### ◆ 原つばの中の齊々哈爾

齊々哈爾の周圍は完全に平原だ。山は勿論のこと丘らしい所も見えない。富裕縣を経て寧年驛迄トラックで走つて見た。何處迄行つても草茫々の原つばが濕地だ。これでは廣いのか狭いのか見當が付き兼ねる。齊々哈爾は其原つばの眞中にある譯だ想像して居たより設備の整つた町だ。もつとも市の岩城工務科長が着任以來ハリ切つて町を綺麗にする爲大童になつて居る精かも分らない。省の早川技佐も高橋技佐も一生懸命だが兵隊が少いには閉口して居るらしい。龍江省は省長、次長、警務廳長、庶務科長、と全部安東省から來た人ばかりだつたが南北交流人事がこんな結果を生ずに至つたのだらう。

#### ◆ 蒙 古 の 三 國 峠

興安東省公署の所在地は扎蘭屯と言ふ。變な話だが南の人は餘りこんな分り切つたことを知らないのだ。序にキラムト、キラリン、ナラムト、アムコロ何んのことだか分かるだらうか？皆ノモンハン同様地名だ。徳永土木科長や中野技士の路線説明には盛んにこんな聞き馴れない地名が出て來る。初めてでは一寸ピンと來ない。中にたつた一つ五叉溝三國峠線と言ふのがある三國峠と聞くとか知らはつと救はれた氣がする。矢張り日本人だ。多分兵隊さんがつけた名前だらうが蒙古の三國峠はどんぶ格恰をして居るだらう。

此調子では蒙古の大菩薩峠が現れるのも餘り遠くあるまい。

#### ◆ 盆 底 海 拉 爾

海拉爾がこんな盆地にあるとは知らなかつた。これでは大いに都市防水の必要がある譯だ。北省の木津土木科長もこれさへ仕上げれば自分の任務は果した事になると言つて居たが大いに理由がある。省の連中並に工程處の宗石工務科長、辻口技佐等とロシヤ式の食堂に2度も行つたがパンは随分お粗末になつた様だ。最近奉天から轉じたばかりの市の國米工務科長と馬込次長の招待の席で同席したが、若いだけに皆に大いに期待をかけ

られて居るやうに見えた好漢自重あれ。

◆ 王 爺 廟 の 娘

王爺廟と言へば今こそ鐵道もついて蒙古の入口位にしか考へられて居ないが滿洲事變前は此處まで行つた日本人は殆ど數へる程しか居なかつた筈だ。省公署を中心に取り巻いて居る房産住宅の並んで居るあたりは蒙古の町と云ふ感じはない。南省の土木科長は麗君と云ふ。サツカと讀むのだ。案内されて土木科の部屋を見る。机が5、6個並んで居るだけだ。科員總數20名と

の事。然しこれでも安東省創設當時土木科員總數7名内滿人5名であつたことに比較すれば大いに増しだと慰めて見たものこんな貧弱なことでは大いに困る。擴充に努力したいと思ふ。王爺廟ホアルに入る。二十前後の斷髮の日本娘がサービスして呉れる。女中と言ふには餘りに生々しい。しかも禮儀正しいサービス振り。

蒙地に咲いた大和撫子一輪。大いに旅愁を慰められる。

( 黒 田 )

# 本 會 販 賣 圖 書

## 第 4 回 土 木 講 習 會 講 演 集

定 價 ¥ 1.20 ( 但 し 會 員 に 限 り ¥ 1.00 )

### 内 容 目 次

#### 講 習 會 寫 眞

交通部大臣祝辭.....	交通部大臣	李 紹 庚
祝 辭.....	産業部大臣	呂 榮 寰
祝 辭.....	副 市 長	關 屋 悌 藏
1. 都 邑 計 畫.....	内 務 局	沼 田 征 矢 雄
2. 堰堤コンクリートの施工.....	水力電氣建設局	空 閑 德 平
3. 地質學上より見たる滿洲の濕地及其他の對策.....	滿鐵調査部	新 帶 國 太 郎
4. 河 川 法.....	交 通 部	矢 野 道
5. 滿洲の氣象に就て.....	中央觀象臺	土 佐 林 忠 夫
6. 日本の河川工事に就いて.....	内 務 省	鷹 尾 蟄 龍
7. 滿洲に於ける道路の施工.....	奉 天 省	種 谷 實
8. 新京の上下水道概要.....	新京特別市公署	重 住 文 男
9. 朝鮮の砂防事業.....	朝鮮府總督	兩 見 正 雄